

こぶし	No.59	上越こぶし山の会
	1988	上越市東本町5-1-38
	9.23	杉本方 ☎(24)3787

<山行記録>

火 打 山 (7月30~31日)

参加者：杉本敏宏、定子、美穂、深雪、坂口信隆

【7/30】

会の山行に家族で参加した。深雪の初めての登山。3歳でどこまで登れるか。笹ヶ峰の林道の奥まで車を入れる。準備をして出発。梅雨明け間近のうっとうしい天気だ。黒沢川まで休まずに行ったのは、少しきつかったか。橋のたもとで昼食。川の水を汲んで飲むのにビックリ顔。

十二曲がりの登りは、あちこちダツコ。美穂が2歳の時の最初の登山は、この十二曲がりの途中で引き返した。小学1年ともなるとちがう。先になって登っていく。

オオシラヒソの樹林帯は、新たに道が切られ、様相が一変していた。どれほどの必要があったのか。富士見平で学校登山の列とすれちがう。じっとりとした暑さがいやらしい。アオモリトドマツは、樹頂に紫紺の実をつけていて、美しい。黒沢山のトラハースは、シロバナヘイチゴの実を食べながらの楽しい登山。高谷池ヒュッテまで5時間。予定通りの時間だった。

今日の高谷池ヒュッテは、ひどい混み方で、150~160名とのこと。自炊は、専でというので、ヒュッテ前で夕方ひとときをすごす。冷やすつもりのカンピークが、温かい湧水に逆にあたためられてしまった。池地から立ちのぼる水蒸気が何とも言えぬ雰囲気だ。

黒魚川登山の佐藤文雄氏、兵庫登山の大塚氏に会う。

7時半過ぎ、ヒュッテに入り、1時前後に成間へ戻る。白平、梅雨明け。

【3】 23】

途中で、雨は上がった。受付で、子連れのため4人で1班にしてもらう。

軽い朝食をとる。その間に、他の参加者は、そくそくと登っていく。一番最後に出発する。

登山道にはいると、しばらくしてはや3合目。ここから1合登るのに、約1時間。5合目の展望台までは、樹林帯。登山道もかなり付け替えられている。雨での侵食が激しいのだろう。林の中なので涼しい。

5合目に来ると、樹高が低くなり、少し、陽も当り始める。対岸の米子沢の瀑布がみごとだ。それにしても、こんなところにスキー場を作る計画とは、いったい何を考えているのだろう。一般登山者も首を傾げていた。

7合目で、帰りの時間も考え、引き返すことにする。チェック・ポイントにその旨を告げる。そこで梨を御馳走になる。すぐ上のガレ場で昼食。ネハリノキランの白い花が、風に揺れる。その風によって、ペニヒカゲが舞う。小さな水晶片を拾う。

今度は、一番先に下山開始。それでも早い人がいて、何人かに追い抜かれる。それらの人達の氏名を聞き、本部に連絡する。

林道にでると、途端に蒸し暑い。桜坂の駐車場は、カンカンでりで、さらに暑い。米子沢に行って、手足を洗う。冷たい水に二人の子供達も喜んではいしゃいでいた。その水を飲んで、ラーメンを作って食べる。

その後の集会在、今日のメイン・イベント。

地元の森林組合長などの発言も含め、数人が発言した。その中ではっきりしたことは、地元の人も、①今の住友不動産の計画には、賛成できないこと、②しかし、何らかの開発を必要としていること、③そのためには、いろんな人の意見を集約した地元の開発計画が必要なこと、④自治体が地元の立場にたつこと、等である。

「約8千年かかって作り上げられた数十センチの表土を、ブルドーザーでアッと一瞬にひっくり返すことは簡単だが、そうしてしまっただけならもうもとは戻らないだろう」という地質学者の意見が特徴的だった。

とて

「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」

あつた

「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」

「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」 「あつた」

【7月31日】

早朝、起床。朝食も外。清々しい気分。梅雨が明けたとはいっても、遠くの山々にはまだ雲がかかっている。

天狗の庭、奥高谷の木道に二人の子供は、大喜び。美穂は、スキップしていく。木道の下には、ハクサンコザクラ、アオノツガザクラ、ヨツバシオガマ。池塘の脇のワスゲも美しい。

稜線に出ると、風が強い。雷鳥坂で一休み。豊富な残雪あり。

ハイマツ帯を抜け、火打山頂への登り。ウサギギクが咲き乱れている。

山頂も風が強く、南面で風を避けて休む。徐々に雲が上がり、夏の空がひろがってくる。頂上での記念撮影をして下山。

高谷池ヒュッテにもどって、早い昼食。そして、ヒュッテに別れを告げる。

日差しが段々強くなってくる。昨日まであおかったシロハナヘビイチゴが、いっせいに真っ赤に熟れている。自然は、まったく正直だ。

十二曲がりの途中、それまで行き交う人に得意満面で対応していた深雪が、突然ぐったりと寝てしまった。そんなこともあるとう用意してきたおふい紐が役に立った。そこから車のところまでぐっすり。

あの火打山に、二日がかりの山行だった。

(記、杉本敏憲)

7/30

登田	9:30	釜ヶ嶽	10:30~11:00	黒沢田	12:00
藤ノ見平	14:30	高谷池ヒュッテ		16:00	

7/31

高谷池ヒュッテ	6:00	火打山頂	7:40~8:30	高谷池ヒュッテ	10:00~11:00
黒沢田	13:15~13:30	釜ヶ嶽	14:30~15:00	高田	17:00

